

提 言 書

～雪みちを安全・快適に歩くために～

提言にあたって



積雪寒冷地の冬期の歩行空間においては、積雪による歩道幅員の減少、雪氷路面での歩行障害など、雪国特有の問題を抱えています。これまで様々な対策が講じられ、冬期歩行空間環境は向上しておりますが、冬も夏と同じ様な感覚で生活するライフスタイル、雪に慣れていない観光客の増加など、取り巻く社会環境の変化により、雪氷に起因する障害などは相変わらず冬期のバリアとして存在しています。札幌市では、冬の歩行者転倒事故がスパイクタイヤ禁止以降に急増し、社会問題化している現状にあります。特に、高齢者の転倒は大ケガにつながるケースの多いことが報告されており、今後の急速な高齢化社会の進展を前に、冬期歩行者転倒事故対策は、札幌市のみならず雪国共通の大きな課題と言えます。

雪道での歩行者転倒事故を防止するためには、道路の対策のみに留まらず、靴や服装、体育、健康、医療、福祉など様々な分野の英知を結集し、多方面から検討を進める必要があります。安全に歩けるような路面管理はもちろんのこと、歩行者自らが転倒予防の意識を高め注意していくことが、冬期歩行者転倒防止対策にとっては欠かせない視点です。

本提言は、2カ年にわたる委員会での広範な活動と議論の結果を踏まえ、冬期歩行者転倒事故防止活動を今後さらに広げていくために、委員会事務局をはじめとする行政機関、民間や地域団体など、今後の雪みち歩行環境づくりに関わるべき全ての機関、団体、さらには社会全体に向けて発信するものです。本提言の実現に向けて活動を広げながら継続的に努力されることを期待します。

平成 18 年 3 月

つるつる路面転倒防止委員会

(ユニバーサルデザインによる冬期歩行者転倒事故防止委員会)

目次

提言にあたって

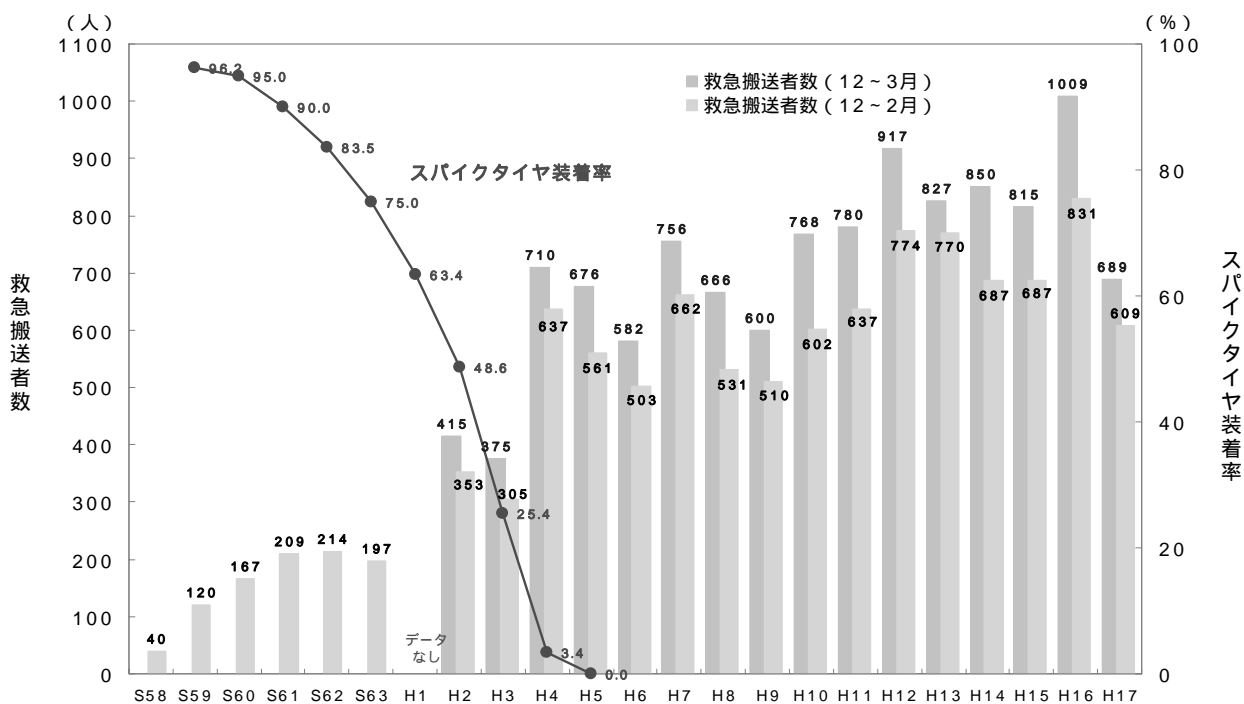
第1章 冬期歩行と転倒事故に関する現状と課題	1
1-1 雪みちでの歩行者転倒事故の現状	1
1-2 雪みちでの歩行に関する利用者意識とニーズ	5
1-3 雪みちでの歩行に関する課題	7
第2章 冬期歩行者転倒防止啓発活動（委員会活動）について	8
2-1 委員会について	8
2-2 取り組み内容	9
1) 取り組み概要	9
2) 転倒防止啓発パンフレット	10
3) 転倒防止啓発ビデオ	11
4) 転倒防止啓発ホームページ	12
5) 参加型啓発活動 ～市民公開講座～	13
6) 体験型啓発活動 ～雪まつり会場での歩行体験イベント～	14
2-3 活動の総括	15
第3章 安全・快適な今後の雪みち歩行環境づくりに向けての提言	17
3-1 提言の骨子	17
3-2 4つの提言	18
1) 多分野との連携・協働	18
2) ニーズに即した多様な手段による啓発活動	21
3) 他地域への活動の展開	23
4) 活動的な雪国のライフスタイルの実現	24
資料	
1. 委員名簿	26
2. 委員会開催の経緯	27

第 1 章 冬期歩行と転倒事故に関する現状と課題

1-1 雪みちでの歩行者転倒事故の現状

スパイクタイヤの使用禁止以降、冬期歩行者転倒事故が急増。

- 平成 3 年(1991 年)にスパイクタイヤの使用が禁止され(札幌管内がスパイクタイヤ使用禁止地域に指定)、札幌市では平成 4 年(1992 年)以降、冬期の歩行者転倒事故が急増しました。毎冬約 600～1000 名の人が転倒により救急搬送され、社会問題になっています。



救急搬送者数は札幌市消防局資料による

図 1-1 札幌市における冬期歩行者転倒事故による救急搬送者数とスパイクタイヤ装着率の推移

高齢者の転倒事故は重症につながるケースが多く深刻化。

- ・ 転倒事故は高年齢層ほど発生割合が高くなっています。
- ・ 高齢になると転倒により重症となる割合が増し、大ケガにつながることが多い傾向にあります。

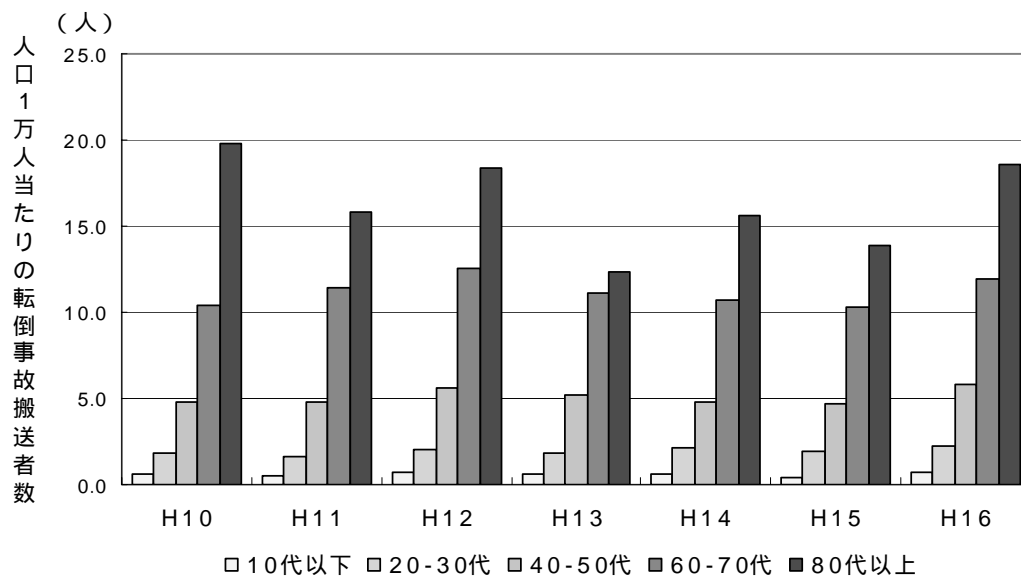


図 1-2 人口 1 万人当たりの転倒事故による年齢別救急搬送者数の推移 (札幌市消防局資料)

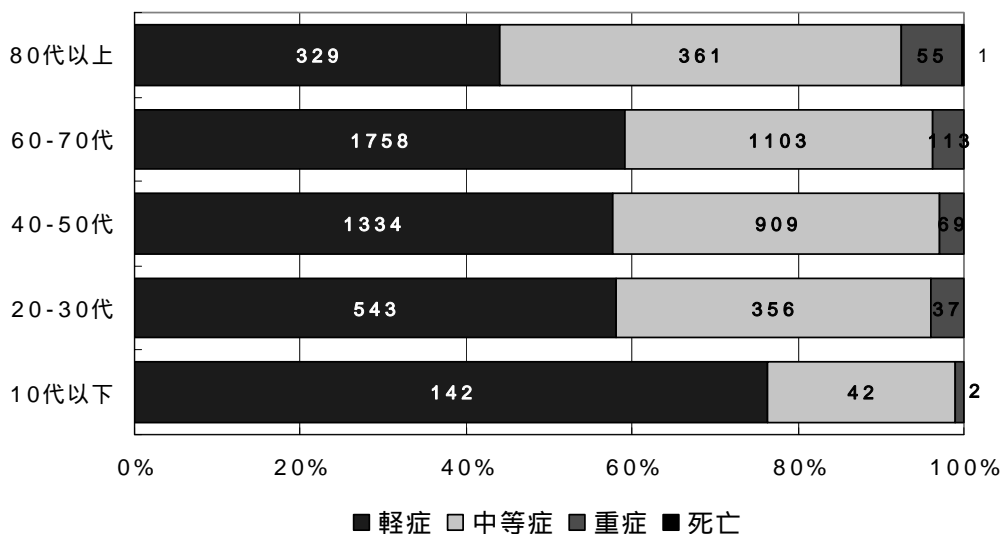


図 1-3 年齢別の転倒事故によるケガの程度 (札幌市消防局資料、H8 ~ H16 累計)

雪に不慣れな観光客だけではなく、市民も日常的に数多く転倒。

- ・札幌市民は7割の人がひと冬に1回以上転倒し、5割の人は2回以上転倒しています。
- ・札幌雪まつりに訪れた道外および海外観光客の約2割の人が、札幌の雪みちで転倒しています。

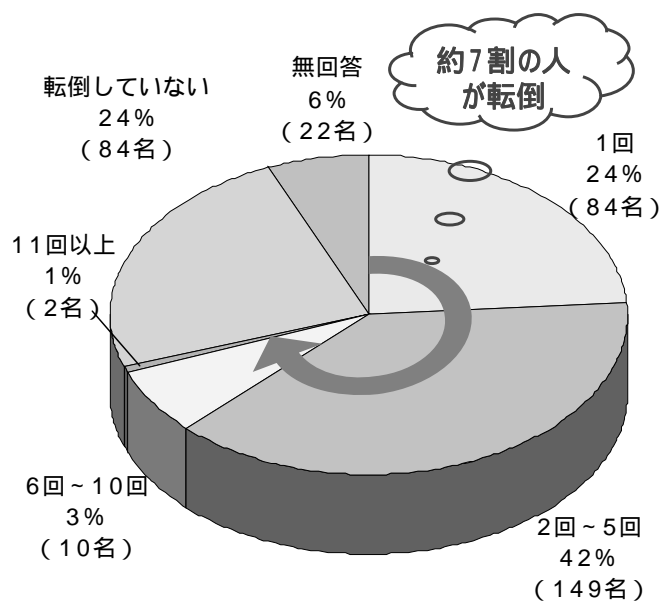


図 1-4 札幌市民のひと冬の転倒回数（平成 16 年度調査）

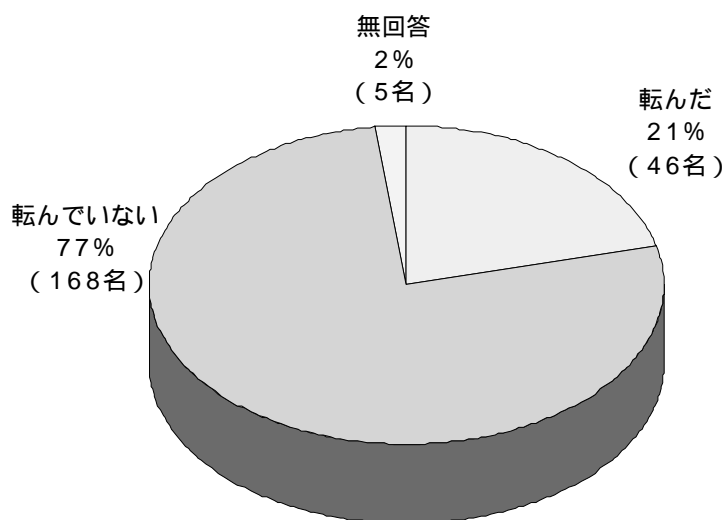


図 1-5 雪まつりに訪れた観光客（道外・海外）の札幌滞在中の転倒回数（平成 16 年度調査）

雪みちでの転倒事故は、札幌以外の北海道内の都市でも発生。

- ・札幌市、小樽市、旭川市における平成 8 年度～12 年度の雪みちでの救急搬送件数を比較すると、札幌市のひと冬当たりの救急搬送件数は約 750 件と格段に多いことがわかります。しかし、人口 1 万人あたりの年平均救急搬送件数で見ると、札幌市の 4.0 人に対して小樽市は 2.6 人、旭川市は 2.2 人となっています。
- ・このことから、冬期の歩行者転倒事故は、札幌市のような大規模都市だけで顕著に発生しているのではなく、他都市でも決して少なくないことがわかります。

表 1-1 札幌市以外での冬期歩行者転倒事故による救急搬送者数

	札幌市	小樽市	旭川市
H8～H12 平均	746.2	38.8	78.6
人口	1,861,652	146,572	362,049
年平均 / 1 万人	4.0	2.6	2.2

各地の消防局の救急搬送原票に基づく

冬期間：各年度の 12 月～3 月まで

人口：各自治体の住民基本台帳に基づく統計（H16 現在）

- ・旭川市の雪みちでの転倒による救急搬送者数は、ここ数年増加傾向にあります。
- ・函館市では、雪みちに慣れているはずの地元の人々の転倒事故が大多数です。

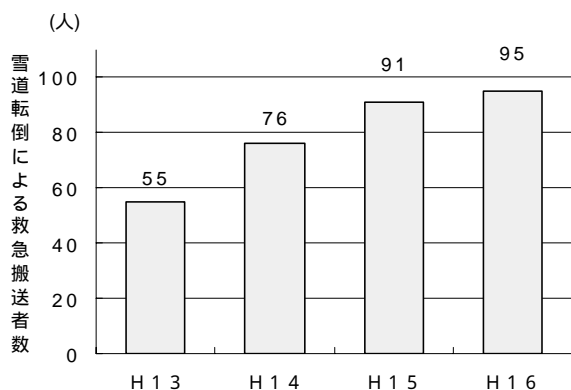


図 1-6 旭川市における雪みちでの転倒事故による救急搬送者数の推移（旭川市消防本部資料による）

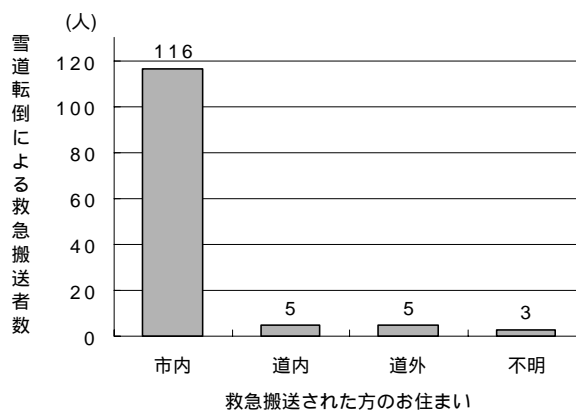


図 1-7 函館市における雪みちで転倒し救急搬送された方のお住まい（平成 16 年 11 月～平成 17 年 3 月）（函館市消防本部資料による）

1-2 雪みちでの歩行に関する利用者意識とニーズ

雪みちでの歩行や転倒を防ぐことに関する札幌市民の高い情報ニーズ。

- ・札幌市民の約4割は、雪みちの「歩き方」や「靴」などについて欲しい情報があると回答しています。

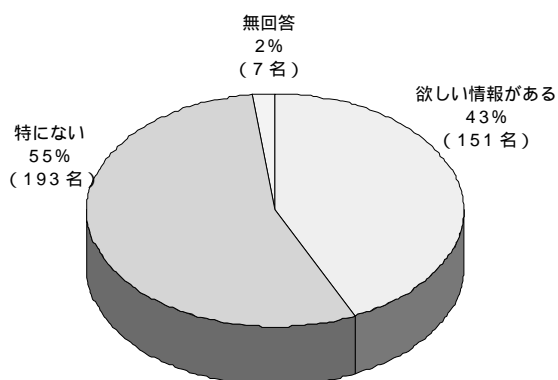


図 1-8 札幌市民の雪みちでの歩き方や転倒防止に関する情報ニーズ
(平成16年度調査)

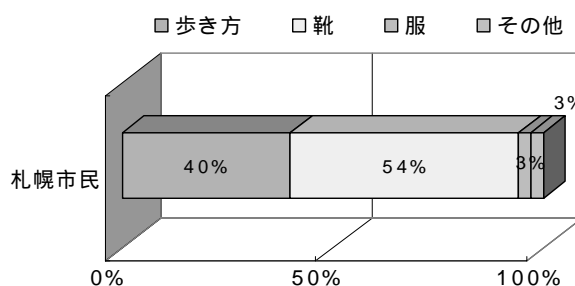


図 1-9 札幌市民の雪みちを歩く時に欲しい情報の種類
(平成16年度調査)

- ・年代別で傾向をみると、50代以上の人の約6割が欲しい情報があると回答しており、高齢になるほど情報へのニーズが高い傾向にあります。

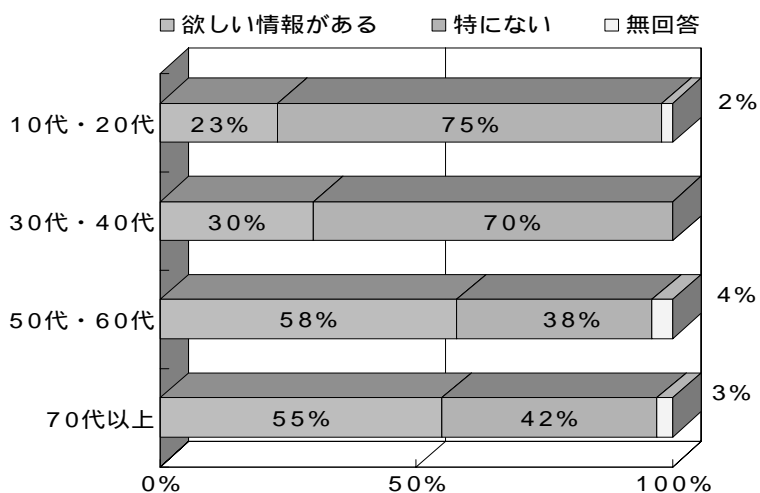


図 1-10 札幌市民の雪みちでの歩き方や転倒防止に関する年代別情報ニーズ
(平成16年度調査)

観光客の雪みちでの転倒事故に対する認知不足と、雪みちでの歩き方や転倒防止に関する高い情報ニーズ。

- ・ 道外や海外観光客の半数の人が、「札幌では雪みちでの転倒事故が多い」ことを知らずに来札しているのが現状です。

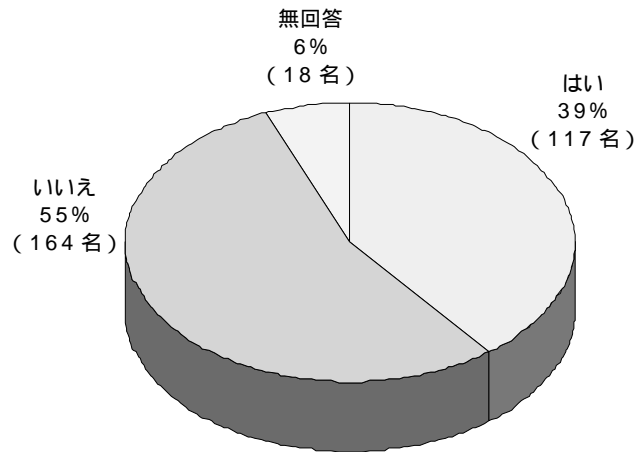


図 1-11 雪まつりに訪れた観光客（道外・海外）の札幌で雪みち転倒事故が多いことへの認知（平成 16 年度調査）

- ・ 冬に札幌を訪れた道外や海外観光客の約半数の人が、雪みちでの「歩き方」や「靴」などに関する情報が欲しいと回答しています。

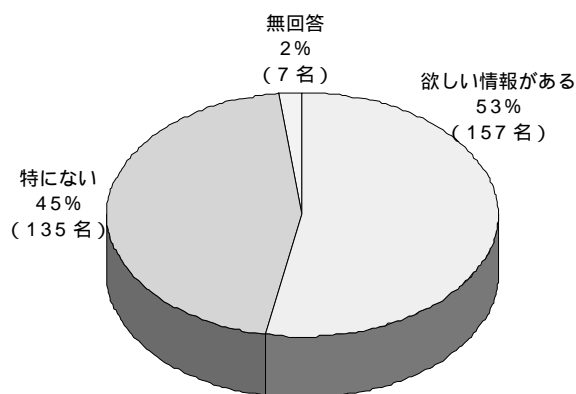


図 1-12 道外・海外観光客の歩き方や転倒防止に関する情報ニーズ（平成 16 年度調査）

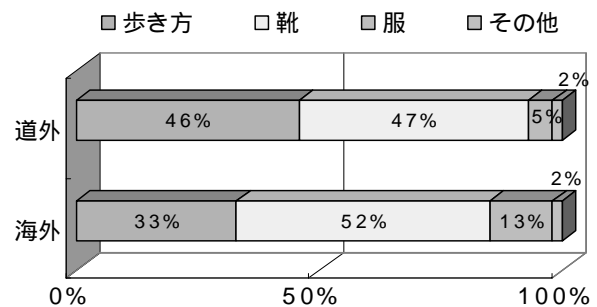


図 1-13 道外・海外観光客が雪みちを歩く時に欲しい情報の種類（平成 16 年度調査）

1-3 雪みちでの歩行に関する課題

雪みちでの歩行者転倒事故の現状

スパイクタイヤ使用禁止以降、札幌では冬期歩行者転倒事故が急増し社会問題化しています。

北海道内の他都市においても雪みちでの転倒事故が発生しています。

特に、高齢者の転倒事故は重症につながるケースが多く、今後の一層の高齢化社会の進展を前に、ますます深刻化する懸念があります。

雪に不慣れな道外・海外観光客は無論のこと、雪に慣れているはずの地元住民も数多く転倒しているのが実状です。

雪みちでの歩行に関する利用者意識とニーズ

札幌市民の約4割は、雪みちの歩き方や転倒防止に関する情報を欲しています。

道外や海外観光客の半数以上は札幌で雪みちの転倒事故が多いことを知らずに来札し、多くが雪みちの歩き方や転倒防止に関しての情報を望んでいます。

- 雪みちでの転倒事故は慢性化しており、特に高齢者の事故が懸念されることから、今後の高齢社会の到来を前に、冬期歩行者転倒事故防止は積雪寒冷地共通の課題です。
- 道外や海外観光客の多くが雪みちでの転倒事故そのものを知らない現状において、雪に不慣れな観光客の転倒事故防止対策は、冬期観光振興での重要な課題の一つと言えます。
- 冬に訪れる観光客等の来訪者のみならず、多くの地元住民が雪みちの歩き方や転倒防止に関する情報を望んでいます。この高い情報ニーズに社会が応え切れていないのが現状で、転んでケガをしないための様々な情報提供の充実が必要です。

第2章 冬期歩行者転倒防止啓発活動（委員会活動）について

2-1 委員会について

委員会では、「道路・交通」、「体育」、「福祉」、「服装」、「靴」の専門家の他、2カ年目には「観光」や「生活」の専門家が加わり、雪みちでの転倒事故防止に対して、従来の枠を越えた幅広い議論を行いました。

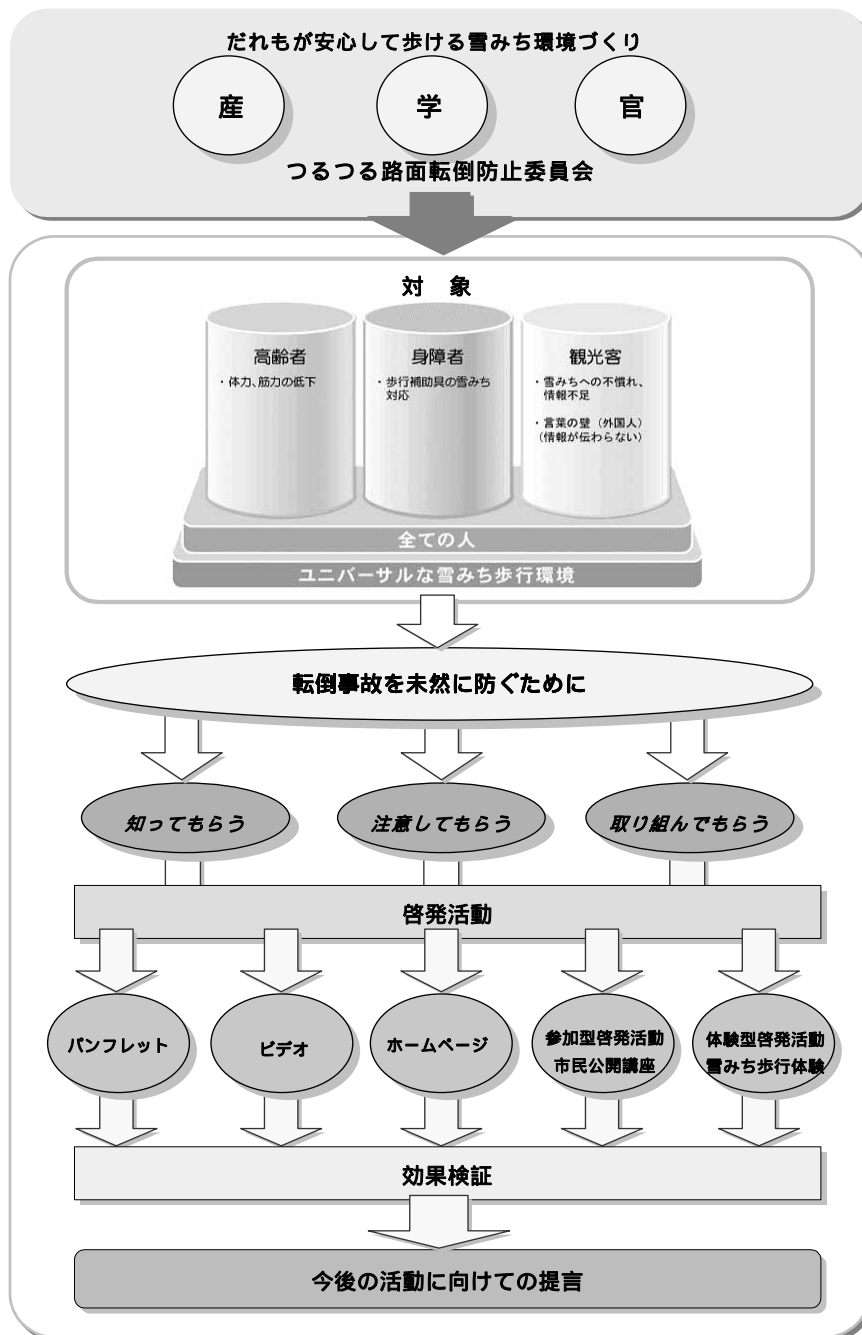


図2-1 冬期歩行者転倒事故防止に向けた委員会の目的と取り組み概要

2-2 取り組み内容

1) 取り組み概要

委員会での検討を踏まえ、2カ年にわたり様々な雪みち転倒事故防止の啓発活動を行いました。

表 2-1 委員会の雪みち転倒防止活動の概要

取り組み項目	平成 16 年度	平成 17 年度
転倒防止啓発パンフレット	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市中心市街地の転倒事故発生箇所マップを掲載したパンフレットを作成。 日本語版 10 万部、中国語版 4 万 4 千部、英語版 6 千部を配布。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民向けと観光客向け用として、内容の異なる 2 種類のパンフレットを作成。 市民向けは 5 万部を配布。 観光客向けは、日本語版 5 万部、中国語版 7 万 5 千部、英語版 3 万部を配布。
転倒防止啓発ビデオ	-	<ul style="list-style-type: none"> 市民向け啓発ビデオを作成し、札幌市内各地区で開催されている転倒予防教室等の教材として活用。 飛行機で来道する観光客向けの啓発ビデオ（30 秒の CM ビデオ）を作成し、空港で放映。外国人観光客のため、中国語、英語、韓国語のビデオを準備。
転倒防止啓発ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> 「転ばないコツ」ホームページを平成 17 年 1 月 25 日に開設。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 17 年 11 月 25 日にホームページを全面リニューアル。雪みち転倒防止に関する様々な情報の充実を図ると共に、雪や氷を知るための情報も掲載。 外国人向けに、英語版のページを平成 17 年 12 月 20 日に公開。
参加型啓発活動	-	<ul style="list-style-type: none"> 一般市民の冬みち歩行に関する注意喚起および情報提供を目的として、市民公開講座「冬道を安心して歩くために」(主催：札幌市、共催：北海道開発局札幌開発建設部)を平成 17 年 12 月 1 日に開催。
体験型啓発活動	-	<ul style="list-style-type: none"> つるつる路面の歩き方や、転ばないためのコツ、防滑靴や靴アタッチメントの効果、砂まきの効果などを実体験を通して知ってもらうのを目的に、雪まつり開催時に「つるつる路面歩き方教室」を開催（さとらんど会場、平成 18 年 2 月 11 日～12 日）。

2) 転倒防止啓発パンフレット

市民向け啓発パンフレット

- ・市民向けの転倒防止啓発パンフレットを作成し、市内の主要駅や行政及び福祉関連施設等で配布（平成17年度）。



図2-2 市民向け啓発パンフレット（平成17年度）

内、6割は「これまでも注意していたから」

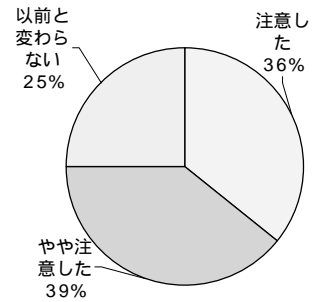


図2-3 効果(パンフレットを見た後の歩き方)

観光客向け啓発パンフレット

- ・観光客向けのパンフレット（4カ国語）を作成し、市内の主要駅の他、観光関連施設や道内の5つの空港等で配布（平成17年度）。



図2-4 観光客向け啓発パンフレット



図2-5 多国語版観光客向け啓発パンフレット（平成17年度）

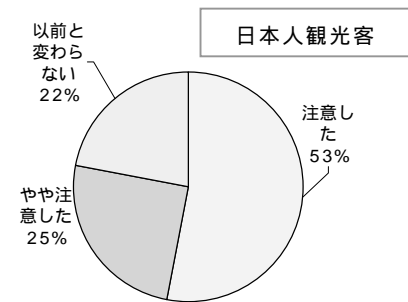
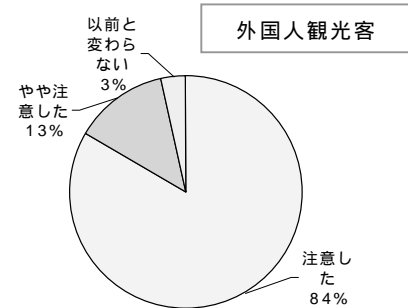


図2-6 効果(パンフレットを見て歩き方を注意したか?)

3) 転倒防止啓発ビデオ

市民向け啓発ビデオ

- ・雪みちでの転倒で重症につながりやすい高齢者を主なターゲットに、「歩き方」や「トレーニング」など学習性のある歩行者転倒防止の知恵や工夫を紹介。
- ・転倒の危険のみを強調するのではなく、「楽しく冬を過ごすための工夫」というシナリオの中で注意喚起。
- ・札幌市内各地区で開催されている転倒予防教室等の講習会の教材として、ビデオを活用。



図 2 - 7 市民向け啓発ビデオ画像

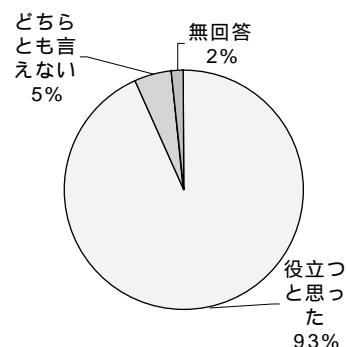


図 2 - 8 ビデオの評価(転倒防止に役立つかどうか?)

観光客向け啓発ビデオ

- ・飛行機で北海道に来る雪に不慣れな観光客をターゲットに、雪みち歩行に対する注意を喚起すると共に、空港内で配布している転倒防止啓発パンフレットを紹介(30秒のCMビデオ)。
- ・外国人観光客のため、中国語、英語、韓国語の字幕付きビデオを準備。
- ・新千歳空港内のCATV(54箇所)と入国審査場、羽田空港搭乗口のTVで放映。



図 2 - 9 観光客向け啓発ビデオの上映状況

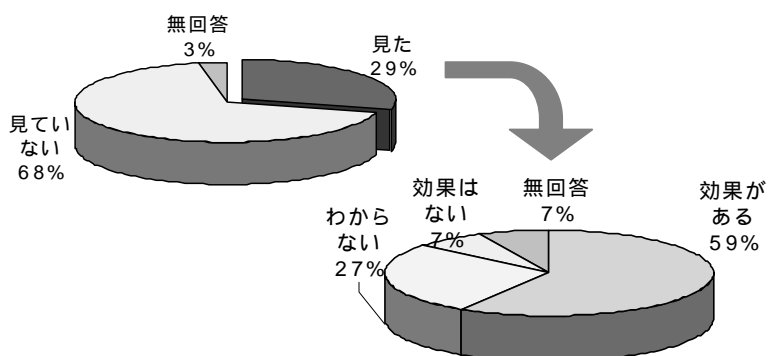


図 2 - 10 外国人への観光客向け啓発ビデオの効果(空港で見たか、見て効果があると思うか?)

4) 転倒防止啓発ホームページ

- ・雪みちでの転倒事故防止に役立つ広範な情報と共に、雪を知り雪と親しめる情報も掲載。
- ・パンフレットやビデオなどの情報も網羅し、各活動を集約する形で情報提供。
- ・平均アクセス数：373件/日、最多アクセス数：5,022件/日
アクセス数は平成17年11月25日から平成18年3月20日までの値を示した。



図 2-11 トップページ



図 2-12 ホームページ掲載情報の例

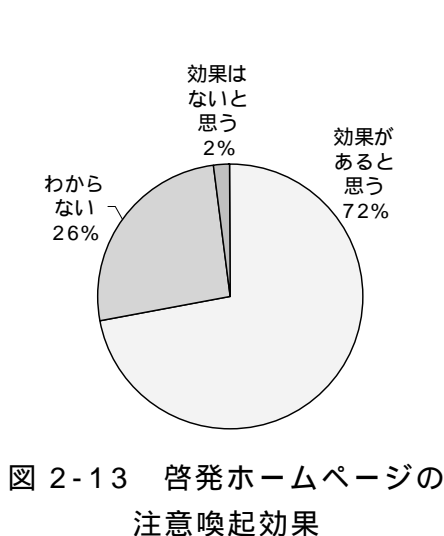


図 2-13 啓発ホームページの注意喚起効果

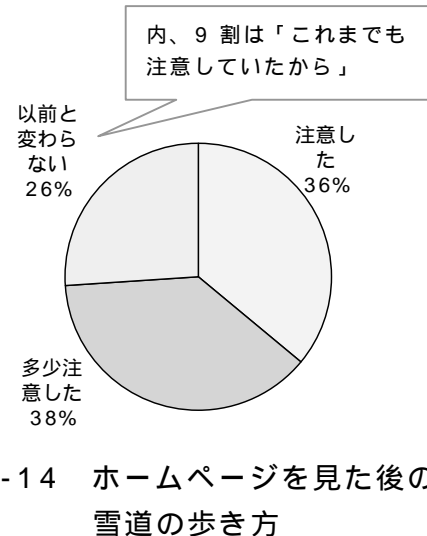


図 2-14 ホームページを見た後の雪道の歩き方

5) 参加型啓発活動 ～市民公開講座～

- ・一般市民の冬みち歩行に関する注意喚起および情報提供を目的として、市民公開講座「冬道を安心して歩くために」(主催：札幌市、共催：北海道開発局札幌開発建設部)を開催(平成17年12月1日)。
- ・パネルディスカッションでは、委員会活動を紹介すると共に、転倒を防ぐために個人が工夫できることなどを中心に議論。
- ・市民公開講座と同時進行で、雪みち歩行に適した靴や杖、帽子、および高齢者向けのケガ予防に配慮しかつファッション性のある服装などの展示会を開催。

市民講座



パネルディスカッション



会場の様子



展示会



防滑靴の展示風景



冬の服装の展示風景



啓発ビデオの放映風景

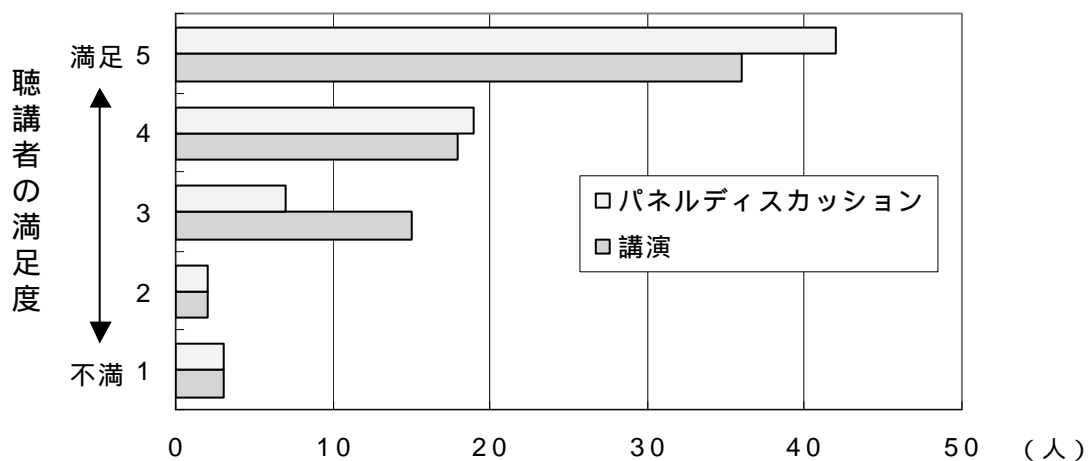


図 2 - 15 聴講者の講演およびパネルディスカッションへの満足度

6) 体験型啓発活動 ～雪まつり会場での歩行体験イベント～

- ・ つるつる路面の歩き方や、転ばないためのコツ、防滑靴や靴アタッチメントの効果、砂まきの効果などを実体験を通して知ってもらうのを目的に、雪まつり開催時に「つるつる路面歩き方教室」を開催（さとらんど会場、平成 18 年 2 月 11 日～12 日）。
- ・ 参加者は、つるつる路面歩行体験 1,024 名、砂まき体験 315 名。



会場の外観



会場テント内の様子



つるつる路面歩行体験の様子



会場外での砂まき体験の様子

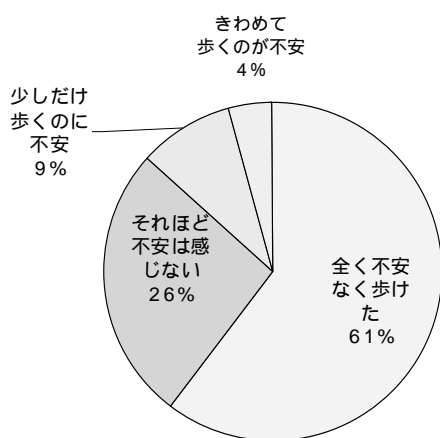


図 2-16 防滑靴や靴アタッチメントを
実際に使った感想

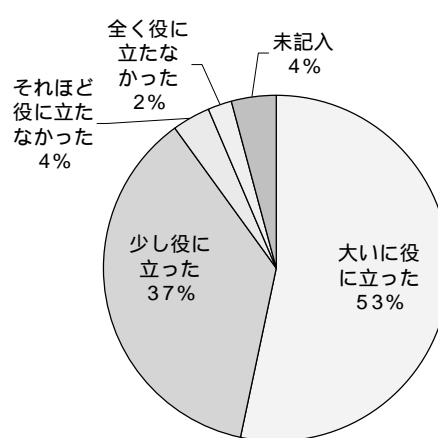


図 2-17 「つるつる路面歩き方教室」が
役に立ったか？

2-3 活動の総括

転倒防止啓発パンフレット

➤ 評価

- ・パンフレットは各方面において好評で、転倒防止の注意喚起効果も大きいと言えます。

➤ 今後の活動と課題

- ・北海道内の他都市での活動と連携を図りつつ、次年度もパンフレットの配布を継続する必要があります。
- ・パンフレットの配布について、関連機関の協力を今後検討すべきです。

転倒防止啓発ビデオ

➤ 評価

- ・高齢者をターゲットにした市民用ビデオは、高い評価が得られています。
- ・観光客をターゲットにした空港での試験的なビデオ放映は、雪みち歩行の注意喚起に有効と言えます。

➤ 今後の活動と課題

- ・啓発ビデオは有用な視覚的啓発教材として期待できることから、福祉部局等と連携を図りつつ、各種集会や出前講座などを利用して幅広く活用していくべきです。

転倒防止啓発ホームページ

➤ 評価

- ・ホームページは注意喚起効果も大きく、市内、道内から海外まで、多くの情報を伝える手段として効果的と考えられます。

➤ 今後の活動と課題

- ・サイト自体の存在を知らない人も多いと考えられることから、関連サイトへのリンクを含め、広報していく必要があります。
- ・ホームページを魅力あるものにするには更新が必須なことから、順次、コンテンツの充実を図っていく必要があります。
- ・外国人観光客に対して、ホームページのより一層の多国語化を検討すべきです。

参加型・体験型啓発活動

➤ 評価

- ・「公開講座」や「つるつる路面歩き方教室」は好評で、初冬期の「公開講座」の開催は、注意喚起する上で時期的に効果的と言えます。

➤ 今後の活動と課題

- ・注意喚起や予防的な話題に留まらず、冬の文化や生活全般まで広げた活動が望まれます。

- ・民間が積極的に参加することで、靴や服装など、市民の関心を高めるような活動の広がりが必要です。

活動全般について

➤ 評価

- ・冬期歩行に関する、道、人、靴、服など総合面からの検討と様々な情報発信の実践は、これまでなかった試みであり、雪みちでの転倒事故防止に関する新たな方向性を示すことができたと言えます。
- ・一連の転倒事故防止啓発活動はマスコミに大きく取り上げられましたが、これは「雪みちでの転倒防止」という社会のニーズに応えた結果と考えられます。
- ・啓発パンフレットは、札幌で先駆的に作成したパンフレットを参考として、旭川、釧路、小樽、函館の道内4都市でも作成・配布され、他都市へも広がりを見せています。
- ・全国の多種多様な分野から、啓発ホームページのリンク要望があり、北海道から全国へ情報発信する形ができつつあります。
- ・転倒防止に関して、企業等の職員の健康管理に利用されている例もあり、活動の範囲が広がっています。

表 2 - 2 転倒防止啓発活動の反響（新聞、テレビでの取り上げ件数）

媒体	平成 16 年度	平成 17 年度
新聞	21 件	11 件
テレビ	9 件	11 件

➤ 今後の活動と課題

- ・雪みちでの転倒事故防止の啓発に関して、ホームページ、パンフレット等の各取り組みの効果や課題はほぼ把握できたことから、今後は、行政主導ではなく、民間や地域と力をあわせて、継続的に活動を広げていく必要があります。

第3章 安全・快適な今後の雪みち歩行環境づくりに向けての提言

3-1 提言の骨子

本委員会での取り組みは、雪国をより安全で快適にする上で多くの方に役立ち、かつ効果があることがわかりました。

本提言は、委員会の活動と議論の結果を、冬期歩行者転倒事故防止活動を進めていく上での課題と方向性として取りまとめたものです。

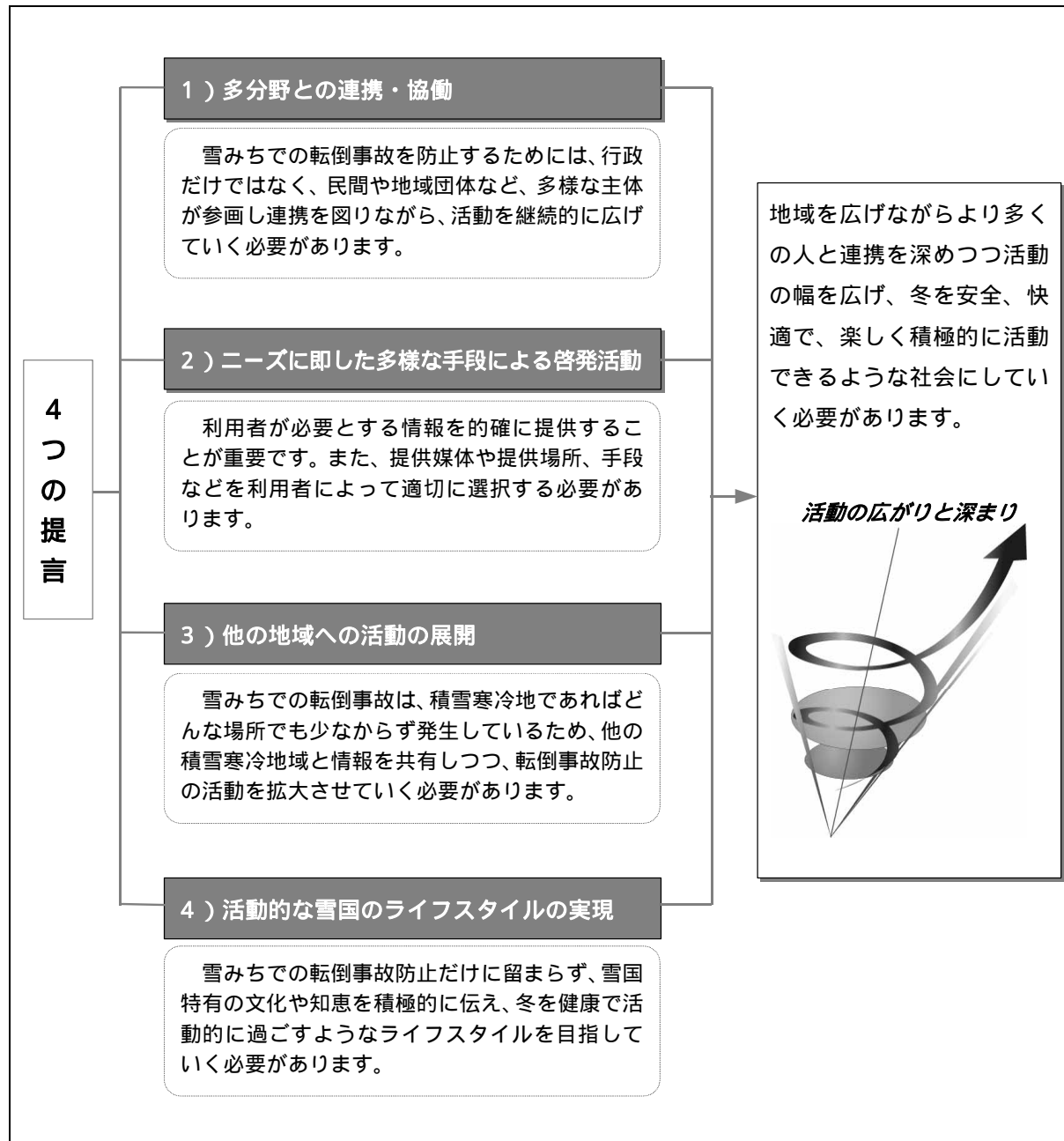


図3-1 提言の骨子

3-2 4つの提言

1) 多分野との連携・協働¹

雪みちでの転倒事故を防止するためには、行政だけではなく、民間や地域団体など、多様な主体が参画し連携を図りながら、活動を継続的に広げていく必要があります。

活動の核となる横断的な組織の設置

- ・雪みちでの転倒防止啓発などの活動について、関連機関や組織の連携・協働を図るためには、地域の活動の核となる組織（コア組織）が必要です（例：つるつる路面転倒防止ネットワーク会議）。
- ・コア組織は、アドバイザーとしての有識者の他、行政、民間など関連する団体がフレキシブルに参加できるようにする必要があります。
- ・コアとなる組織は、関連する活動の情報共有の場とし、連携可能な活動を効率的・効果的にするなどのコーディネータ的な役割を果たします。
- ・コア組織会議においては、各機関・組織の活動計画と取り組み結果などを共有し、次年度の活動計画に反映させていくことも必要です。

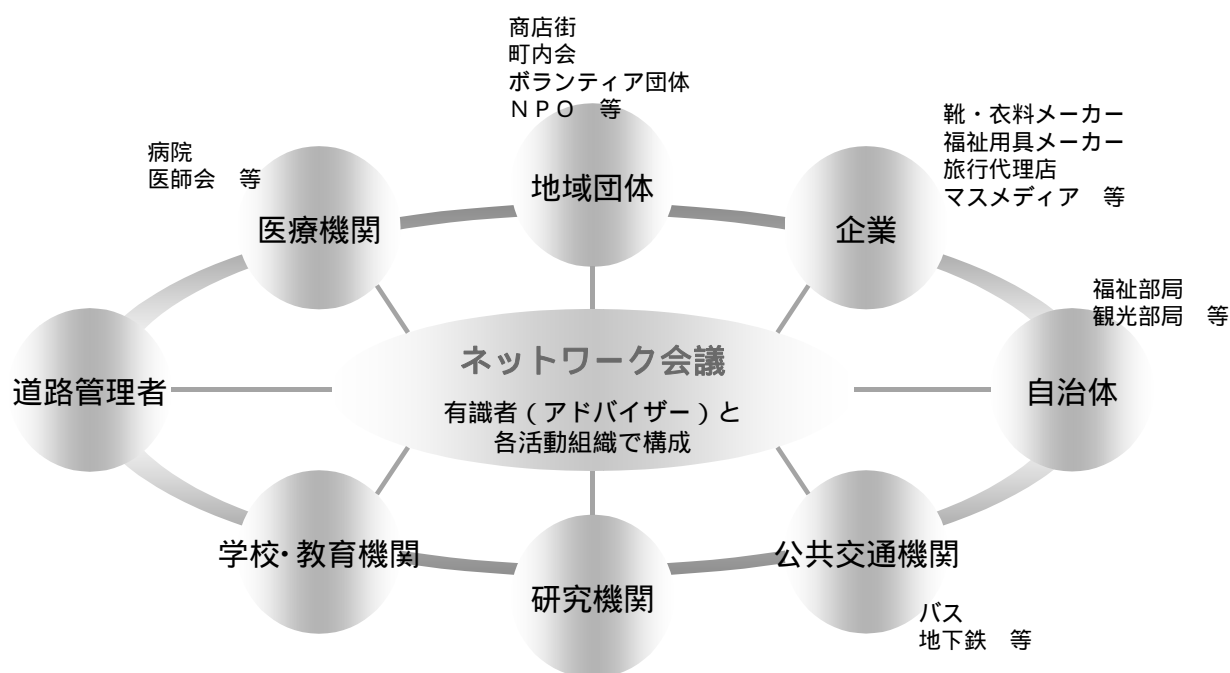


図 3-2 多分野、他機関との連携イメージ

¹ 協働：市民、企業、行政など様々な主体が資源（人材、資金、技術など）や特性を生かして、役割と責任を明確にし、同じ目的のために協力して活動していくこと。

今後、連携・協働が必要な組織

- ・ 今後、雪みちでの転倒事故防止活動を持続的、かつ発展的に進めていくためには、既に活動している組織と連携を図っていくとともに、関係する機関・組織に積極的に働きかけを行い、活動を広げていく必要があります。
- ・ 連携が必要と考えられる機関・組織
 - 自治体（福祉部局、観光部局等）
 - 道路管理者
 - 企業（靴・衣料・福祉用具メーカー、旅行代理店、マスメディア等）
 - 地域団体（商店街、町内会、ボランティア団体、NPO等）
 - 学校・教育機関
 - 研究機関
 - 医療機関（病院、医師会等）
 - 公共交通機関（バス、地下鉄等）
- ・ 特に、転倒事故防止啓発のための情報発信は、自治体（福祉部局等）、マスメディア、観光業界等と連携して進めていくことが重要です。
 - 福祉部局：高齢者や障がい者への情報発信
 - 観光業界：雪に不慣れな道外・海外観光客への情報発信



図 3-3 福祉機関による雪みち転倒防止啓発活動の例。
らくらくフェア2006
「転倒防止グッズフェア」

役割分担と連携

- ・ 道路管理者は、滑らない道路を確保するための路面管理や技術開発等を今後も進めていく必要があります。
- ・ 行政の各機関や企業が連携して活動を進めることはもちろんですが、住民や地域団体が、安全、快適な歩行環境づくりへの意識を高め、行動するような、地域活動の充実を目指す必要があります。

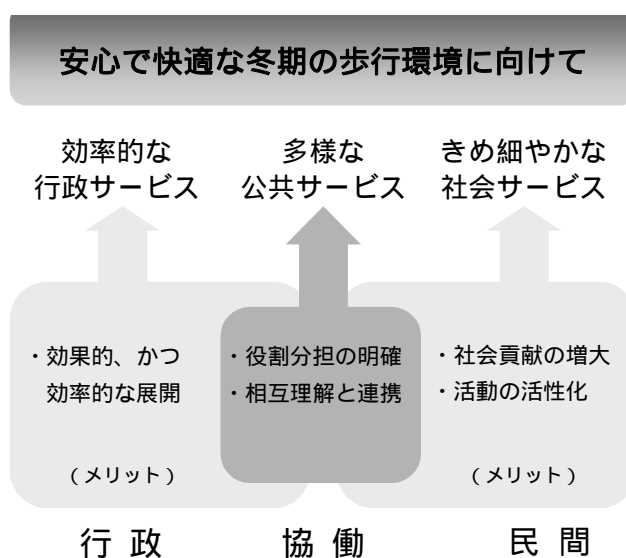


図 3-4 転倒防止活動における役割分担のイメージ

連携による取り組み内容

- ・連携による啓発活動を進めるに際しては、各取り組みについてパートナーを拡大しながら、段階的に活動の輪を広げていく必要があります。
- ・転倒防止の活動に一体感を持たせるような、プロモーション的な活動も検討すべきです。

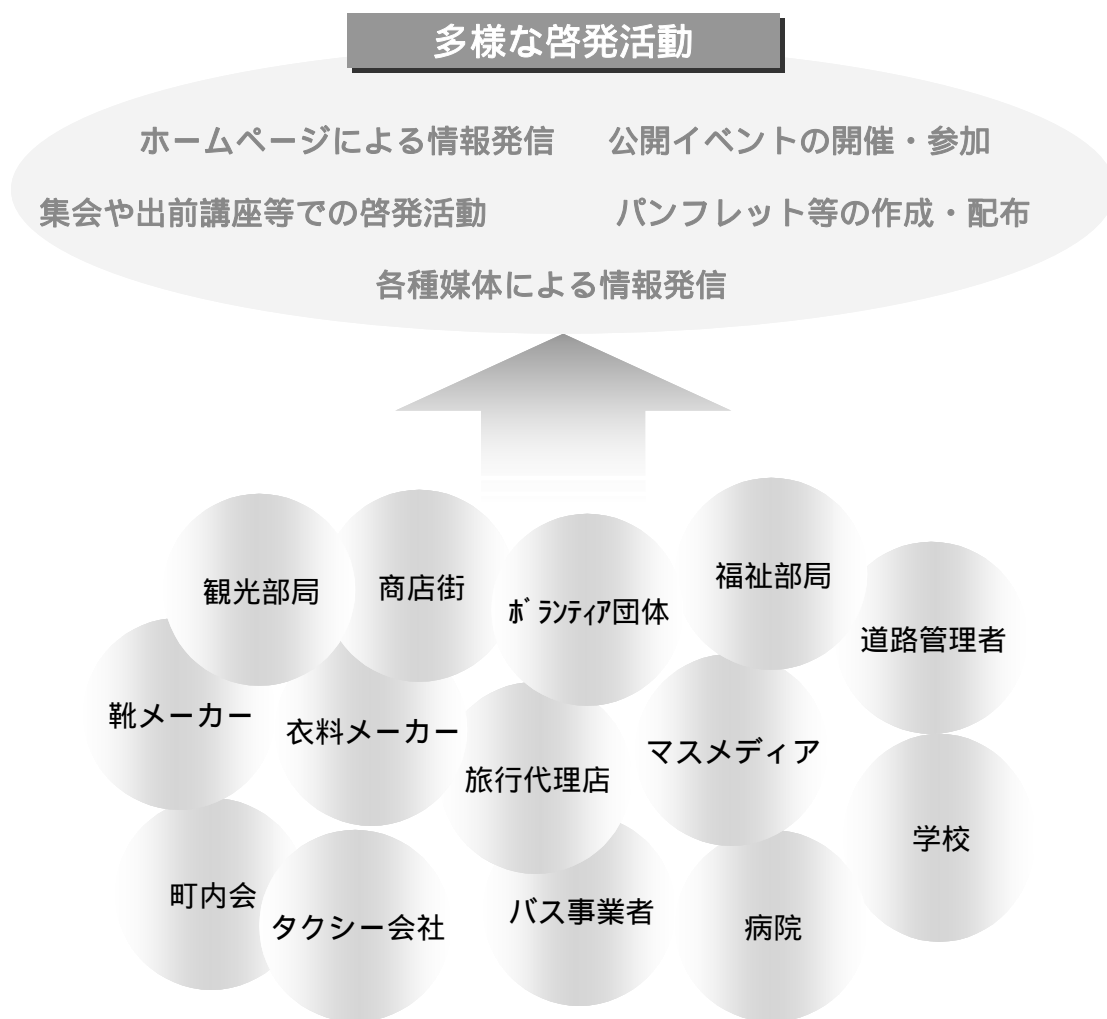


図 3-5 連携による雪みち転倒防止啓発活動の取り組み

2) ニーズに即した多様な手段による啓発活動

雪みちでの転倒事故防止に必要な情報は、住民、雪に不慣れな道外・海外観光客、若年世代、高齢者など、人によって異なります。また啓発手段も、パンフレット等の紙媒体からインターネットまで様々なものが考えられます。情報を入手する場所も、家庭、職場、駅・空港などの交通拠点、集会や各種イベント会場、移動中など、色々な場面が想定されます。

転倒防止啓発を行う際は、利用者が必要とする情報を的確に提供することが重要です。また、提供媒体や提供場所、手段などを利用者によって適切に選択する必要があります。

住民への啓発活動

- ・安全、快適な雪みち歩行に向けての意識や知識が生活習慣として定着し、各自の転倒防止に対する対応力が向上するよう、啓発活動を継続していく必要があります（ホームページでの情報提供、各種集会や会合でのパンフレットやビデオなどの教材を活用した啓発活動など）。
- ・今後は人の集まる都心部だけでなく、住宅地などの身近な生活空間での転倒防止に対しても取り組んでいく必要があります。
- ・転倒事故が集中する歓楽街での転倒事故対策について、場所と手段を特化させた対策も検討すべきです。
- ・ロードヒーティング区間、地下街などでは冬でも夏と同様に歩行できるようになり、靴や服装など、冬も夏を基準とした生活習慣を持つ人が増えてきています。冬の始めには、生活や行動を根本的に夏と変えるような意識の変化を定着させる取り組みも必要です。
- ・雪みちでの砂の散布は転倒防止に大きな効果があります。住民の砂散布を期待して設置されている砂箱に関して、広報を充実させ、冬期 VSP²への参加も含め、砂の散布について住民の理解を深めることが必要です。



² 冬期VSP(冬期ボランティア・サポート・プログラム): 砂まきや歩道除雪など、地域の方々(町内会や企業等)の協力を得ながら、現地の路面や雪の状況等の変化に即応した、よりきめ細かな冬期歩行環境づくりを目的とした取り組み。

高齢者への啓発活動

- ・ 高齢者の転倒事故対策には、福祉部局と連携した取り組みが重要です（高齢者集会での出前講座や講習会などの開催）。
- ・ 日常生活において体力や運動能力の低下を防ぐことは大切であり、そのことが雪みちで転ばないことにつながります。このため、トレーニングの必要性や、具体的な方法について啓蒙していくことが重要です。



- ・ 転倒が大ケガにつながりやすい高齢者は、転んでもケガのしにくい各種衝撃吸収アイテム（保護帽や保護プロテクターなど）が有効ですが、これらの存在自体を知らない人も多いため、様々な手段で紹介していく必要があります。
- ・ ホームページなどによる情報入手に不慣れな高齢者も多いことから、パンフレットのような紙媒体やビデオなどの映像など、よりわかりやすい情報提供の仕方を工夫する必要があります。

観光客への啓発活動

- ・ 雪に不慣れな、あるいは雪を知らない観光客にとっては、雪みちで滑ること自体の認識さえも持っていない人もいるため、雪や氷の性質と合わせて幅広い情報を伝えていく必要があります。
- ・ 雪みちでの転倒事故というマイナス面だけではなく、雪や氷の良さ、面白さも含めて冬の観光振興にも資するような情報提供が必要です。

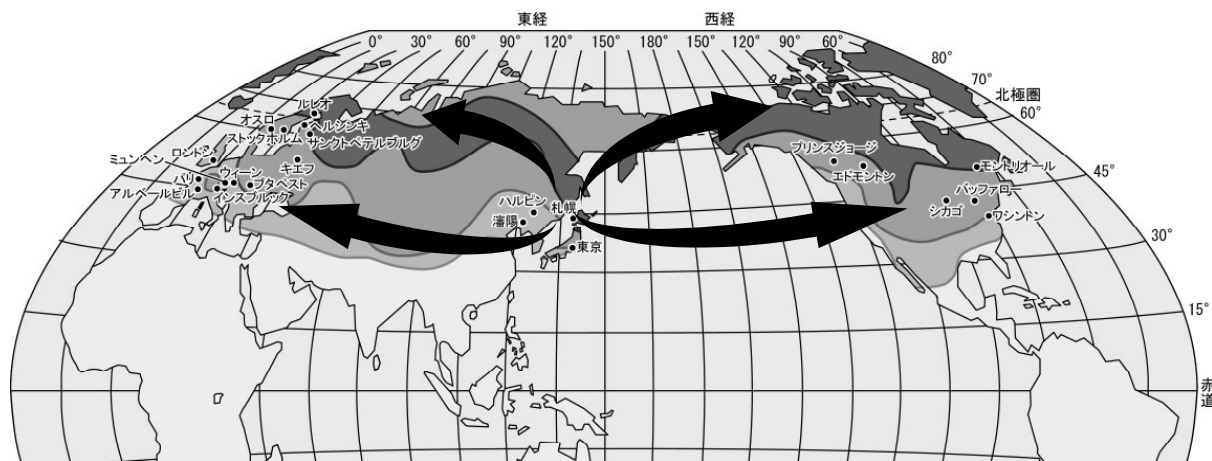


- ・ 北海道に来てからの情報提供だけではなく、旅行前にもホームページなどによって、雪みちや冬に関する知りたい情報が入手できるようにすることが必要です。
- ・ 来道する旅行者（道外・海外観光客）の多くは、インターネットや旅行代理店を通して情報を入手していることから、ホームページの多国語化や旅行代理店とタイアップした国内外への情報提供を検討すべきです。

3) 他の地域への活動の展開

雪みちでの転倒事故は、積雪寒冷地であればどんな場所でも少なからず発生しているため、他の積雪寒冷地域と情報を共有しつつ、転倒事故防止の活動を拡大させていく必要があります。

- ・札幌における雪みち転倒事故防止の取り組みは、国内外の積雪寒冷地域の参考になることを目指して活動することが大切です。
- ・雪みちでの転倒事故防止に関わる基礎的知識や情報は、地域が異なっても共通であることから、啓発に関して作成した素材（パンフレットやビデオ等）は、他の地域での活動にも生かすよう有効活用を図っていくことが必要です。
- ・国内外の積雪寒冷地域との交流を深めることにより、他地域での転倒事故の実態や転倒防止に関わる取り組みに関して情報を共有し合い、各地域での取り組みが他でも生かされるよう、連携を強くすることが重要です。
- ・雪みちでの転倒事故は冬期の気象条件による路面状況に大きく影響されるため、啓発活動と並行して、転倒事故の推移を監視していく必要があります。



世界の最深積雪量の分布

- 50cm以上
- 10cm以上50cm未満
- 1cm以上10cm未満

図 3-6 札幌での転倒事故防止啓発活動を他の積雪寒冷地域に広く展開

4) 活動的な雪国のライフスタイルの実現

雪みちでの転倒事故防止の啓発活動においては事故防止だけに留まらず、雪国特有の文化や知恵を積極的に伝え、冬を健康で活動的に過ごすようなライフスタイルを目指していく必要があります。

- ・雪みちでの転倒事故を防ぐだけでなく、雪国の風土に適応した、冬を健康で活動的に過ごせるような体力づくり、健康づくりが重要です。
- ・住民は雪みちでの転倒の他にも、除雪の大変さなど、雪をネガティブに捉える傾向があります。雪国でなければできないことなど、雪のプラス面も積極的に取り上げ、雪と共生していく環境作りが重要です。
- ・雪みちでの転倒は、積雪寒冷地の一つの側面に過ぎません。観光客などの来訪者に対して危険なイメージだけが先行しないように、雪や氷が持つ魅力や楽しさも知ってもらうようなポジティブな伝え方を考えるべきです。



資 料

1. 委員名簿

委員（平成17年度）

	氏名	所属
委員長	高野 伸栄	北海道大学大学院工学研究科 助教授
委員	赤城 由紀	札幌国際大学社会学部ビジネス社会学科 助教授
委員	浅野 基樹	(独)北海道開発土木研究所 道路部 交通研究室 室長
委員	川初 清典	北海道大学高等教育機能開発総合センター 教授
委員	久保田 貴宏	東アジア北海道ブランディング事業実行委員会 事務局長 (平成17年9月30日 辞任)
委員	稲村 秀人	東アジア北海道ブランディング事業実行委員会 事務局次長 (平成17年10月1日 就任)
委員	鈴木 英樹	札幌市身体障害者福祉センター 理学療法士
委員	永田 志津子	札幌国際大学短期大学部総合生活学科 教授
委員	野口 勉	苫小牧工業高等専門学校機械工学科 助教授
委員	守 和彦	北海道靴卸商業組合 理事長

(敬称略・五十音順)

委員（平成16年度）

	氏名	所属
委員長	高野 伸栄	北海道大学大学院工学研究科 助教授
委員	川初 清典	北海道大学体育指導センター 助教授
委員	鈴木 英樹	札幌市身体障害者福祉センター 理学療法士
委員	岳本 秀人	(独)北海道開発土木研究所 道路部 維持管理研究室 室長
委員	永田 志津子	札幌国際大学短期大学部総合生活学科 教授
委員	野口 勉	苫小牧工業高等専門学校機械工学科 助教授

(敬称略・五十音順)

2. 委員会開催の経緯

日時	場所	会議名	主な会議内容
平成 17 年 1 月 18 日	札幌アスペン ホテル	平成 16 年度 第 1 回委員会	(1)委員会の概要説明 (2)冬の歩行者転倒事故の現状 (3)これからの転倒事故防止について (4)今年度の取り組み (5)今後のスケジュール
平成 17 年 3 月 1 日	ホテルモント レ エーデル ホフ札幌	平成 16 年度 第 2 回委員会	(1)今年度の活動報告 ・つるつる路面マップの配布 ・ホームページの開設 ・冬期歩行に関するアンケート調査 (2)今年度の総括及び今後の活動
平成 17 年 7 月 19 日	ホテル札幌ガ ーデンパレス	平成 17 年度 第 1 回委員会	(1)平成 16 年度冬期歩行者転倒事故調査報告 (2)平成 16 年度の活動報告 (3)平成 17 年度の活動方針と全体スケジュール (4)平成 17 年度の具体的な活動内容
平成 17 年 9 月 28 日	ホテル札幌ガ ーデンパレス	平成 17 年度 第 2 回委員会	(1)全体スケジュール (2)各活動の確認・検討 1)啓発パンフレット ・市民用 ・観光客用 2)ホームページ 3)市民用啓発ビデオ 4)観光客用啓発ビデオ 5)参加型・体験型啓発活動 ・市民講座 ・雪まつりでのイベント 6)靴・歩き方等の歩行実験 7)効果計測について
平成 17 年 11 月 22 日	ホテル札幌ガ ーデンパレス	平成 17 年度 第 3 回委員会	(1)各活動の進捗状況 (2)各活動の確認・検討 1)啓発パンフレット 2)ホームページ 3)市民用啓発ビデオ 4)参加型・体験型啓発活動 ・市民公開講座 ・雪まつりイベント 5)靴・歩き方等の歩行実験 6)効果計測について

平成 18 年 1 月 27 日	ホテル札幌ガ ーデンパレス	平成 17 年度 第 4 回委員会	<p>(1)今年度の活動中間報告および今後の活動予定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)転倒防止啓発パンフレット 2)ホームページ ~転ばないコツ 2005~ 3)転倒防止啓発ビデオ 4)体験型啓発活動 ~雪まつり会場~ 5)つるつる路面と靴の屋外実験 6)参加型啓発活動 ~市民公開講座~ 7)今冬の札幌市内での転倒事故状況(速報) 8)啓発活動の効果計測 9)活動の広がり・反響の現状(報告) <p>(2)今後の活動の方向性について</p>
平成 18 年 3 月 22 日	ホテルポール スター札幌	平成 17 年度 第 5 回委員会	<p>(1)今冬の札幌市内での転倒事故状況(速報)</p> <p>(2)啓発活動の効果計測等調査結果(速報)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)転倒防止啓発パンフレット 2)転倒防止啓発ビデオ 3)ホームページ~転ばないコツ 2005~ 4)体験型啓発活動 ~雪まつり会場~ 5)啓発活動全般 <p>(3)提言書について</p>